

2014年5月19日 全6頁

Indicators Update

3月機械受注

市場予想を上回る良好な結果。見通しも堅調

経済分析室
エコノミスト 久後 翔太郎

[要約]

- 2014年3月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+19.1%と2ヶ月ぶりに増加し、市場コンセンサス（同+5.8%）を大幅に上回った。3ヶ月移動平均値で見ても、2ヶ月ぶりの増加となっており、機械受注は増加基調に復した格好だ。
- 需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比+23.7%と2ヶ月ぶりに増加した。3ヶ月移動平均値で見ても、4ヶ月ぶりの増加となっており、増加基調に転じた。非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+8.5%と2ヶ月ぶりに増加した。
- 外需は前月比+3.2%と4ヶ月連続で増加した。また、内閣府公表の4-6月期見通しでは、外需は前期比+33.5%と強気の数字が示されており、世界経済の回復が外需の増加をけん引する構造が続く見込みである。
- 内閣府公表の2014年4-6月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比+0.4%と5四半期連続の増加を見込んでいる。この数値は、4月から6月にそれぞれ前月比▲4.6%でも達成可能となるため、機械受注は4-6月期も増加が続くとみている。製造業、非製造業とも企業業績が明確に改善していることや、非製造業を中心に設備投資の不足感が強まっていることが、設備投資の増加を支援する材料となる。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2013年						2014年					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
民需（船電を除く）	▲ 5.6	6.1	▲ 1.0	0.3	5.1	▲ 1.1	0.9	6.5	▲ 12.1	8.1	▲ 4.6	19.1
コンセンサス												5.8
DIR予想												6.7
製造業	▲ 2.0	1.0	3.3	5.5	▲ 1.2	2.2	3.4	0.5	▲ 7.8	4.9	▲ 4.6	23.7
非製造業（船電を除く）	▲ 2.5	13.2	▲ 9.0	0.5	4.1	▲ 3.0	5.6	6.4	▲ 11.5	6.1	▲ 5.1	8.5
外需	▲ 19.0	7.6	▲ 11.2	1.5	15.2	▲ 13.6	▲ 5.6	3.2	3.7	2.3	3.2	

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府統計、Bloombergより大和総研作成

3月の機械受注は市場予想を大幅に上回る良好な結果

2014年3月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+19.1%と2ヶ月ぶりに増加し、市場コンセンサス（同+5.8%）を大幅に上回った。3ヶ月移動平均値で見ても、2ヶ月ぶりの増加となっており、機械受注は増加基調に復した格好だ。

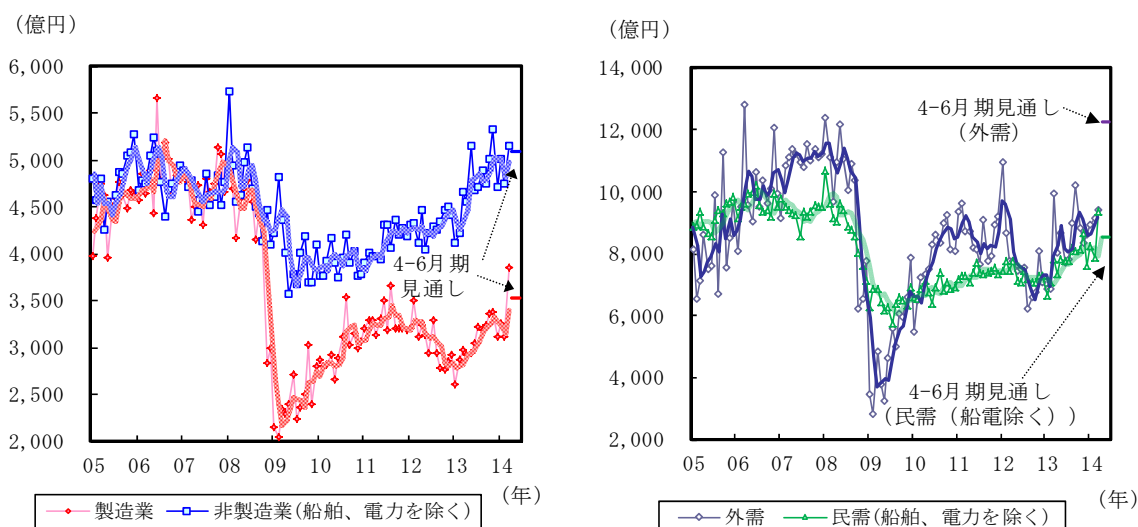
製造業の増加が全体を押し上げ

需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比+23.7%と2ヶ月ぶりに増加した。3ヶ月移動平均値で見ても、4ヶ月ぶりの増加となっており、増加基調に転じた。製造業で前月から増加した業種を見ると、その他製造業（前月比+101.0%）、その他輸送用機械（同+68.7%）、非鉄金属（同+270.1%）、電気機械（同+8.8%）などの増加が全体を押し上げた。一部の業種では、特殊要因の可能性がありやや割り引いてみる必要があるだろう。ただし、特殊要因を除いても全体としては上向いており、良好な結果であったと捉えている。

非製造業は2ヶ月ぶりの増加

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+8.5%と2ヶ月ぶりに増加した。業種別に見ると、通信業（同+27.1%）、その他非製造業（同+18.6%）、情報サービス業（同+6.7%）の増加が全体を押し上げた。一方、運輸業・郵便業（同▲26.1%）、農林漁業（同▲27.8%）などは前月から減少した。

図表2：需要者別機械受注(季節調整値)

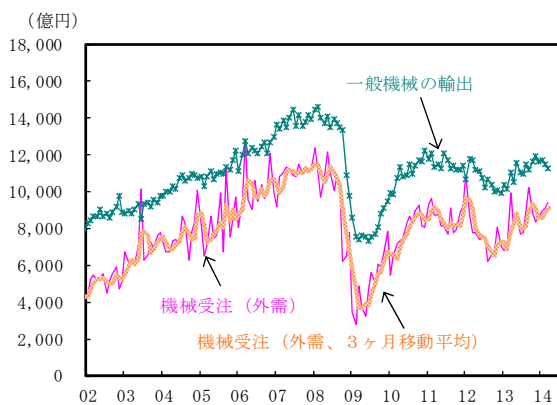


(注) 太線は3ヶ月移動平均線。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

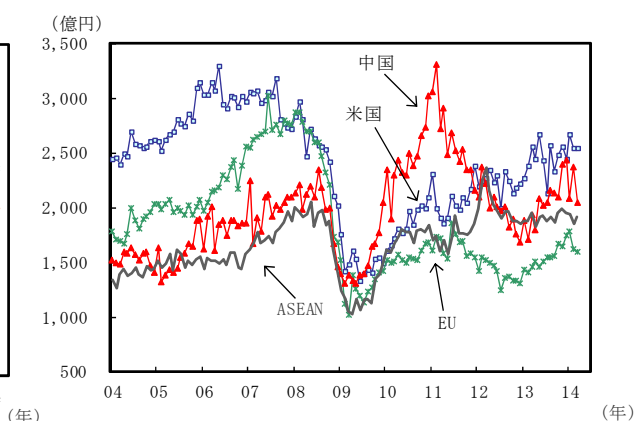
外需は4ヶ月連続の増加。見通しも強気

外需は前月比+3.2%と4ヶ月連続で増加した。また、内閣府公表の4-6月期見通しでは、外需は前期比+33.5%と強気の数字が示されており、世界経済の回復が外需の増加をけん引する構造が続く見込みである。

図表3：一般機械の輸出と機械受注の外需 図表4：一般機械の輸出金額（主要国・地域）



(注) 季節調整は外需は内閣府、一般機械輸出は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

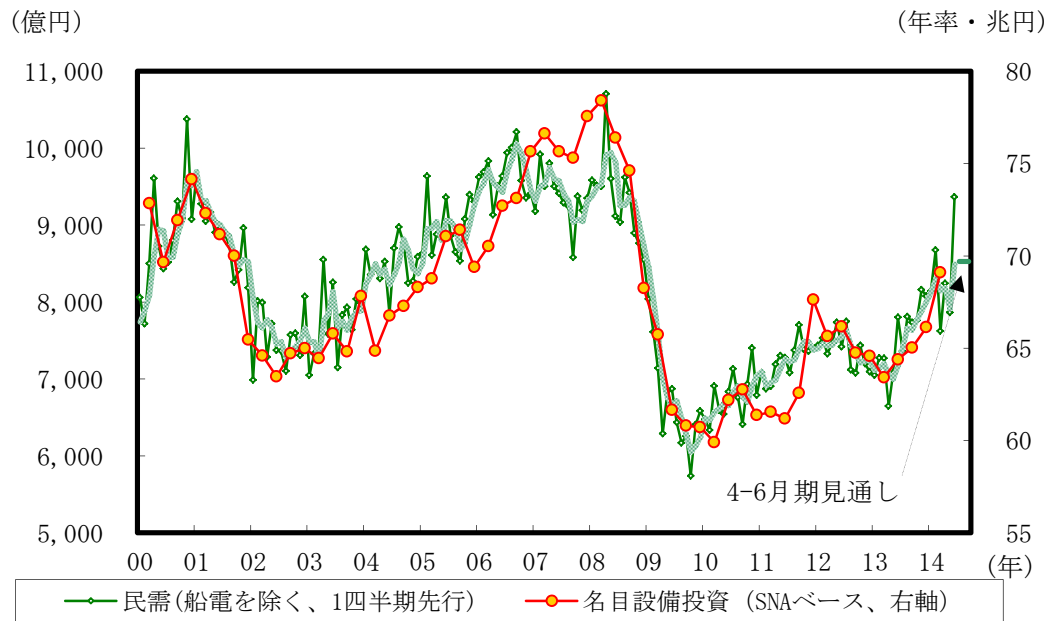


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

4-6月期内閣府見通しも堅調な結果

内閣府公表の2014年4-6月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比+0.4%と5四半期連続の増加を見込んでいる。この数値は、4月から6月にそれぞれ前月比▲4.6%でも達成可能となるため、機械受注は4-6月期も増加が続くとみている。製造業、非製造業とも企業業績が明確に改善していることや、非製造業を中心に設備投資の不足感が強まっていることが、設備投資の増加を支援する材料となる。このため、機械受注の先行きについては増加が続く見込みである。個人消費や住宅投資については消費税増税後の反動減が避けられないなか、設備投資が増税後の成長の下支え役になるとみている。

図表 5 : 機械受注の民需と名目設備投資

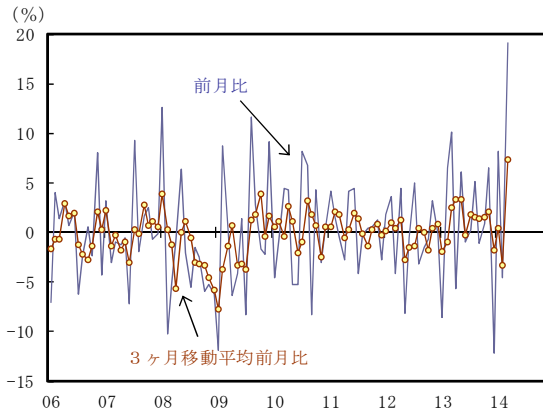


(注) 太線は3ヶ月移動平均線。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

概況

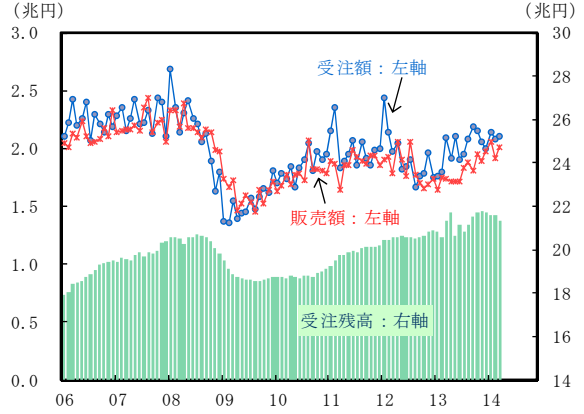
民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）



(出所) 内閣府統計より大和総研作成

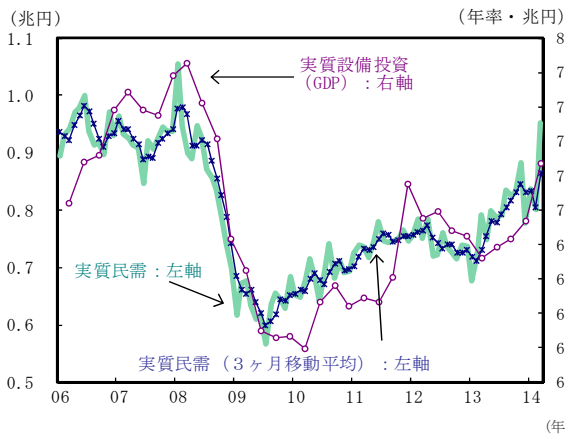
(年)

船舶を除く合計（季節調整値）



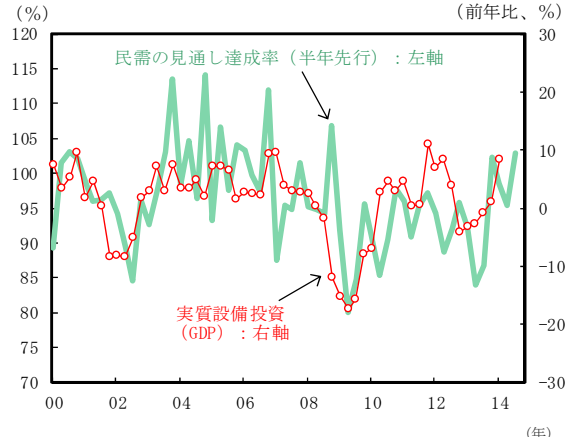
(年)

実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）



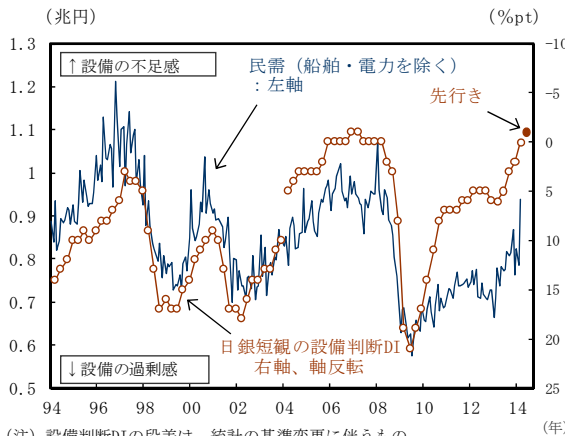
(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。
(出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

民需（船舶・電力を除く）の達成率と実質設備投資



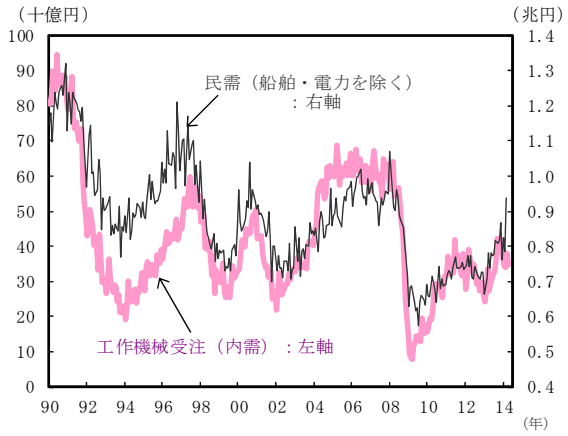
(年)

機械受注（季節調整値）と設備判断DI



(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

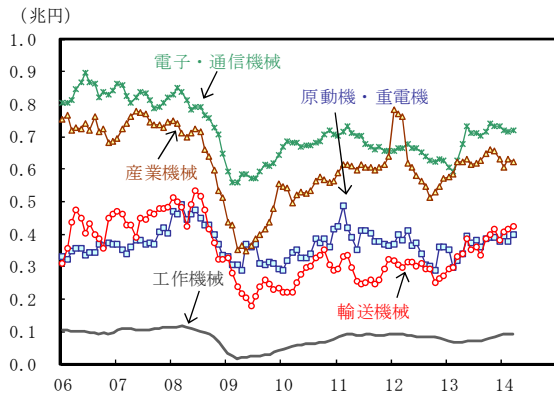
機械受注と工作機械受注



(年)

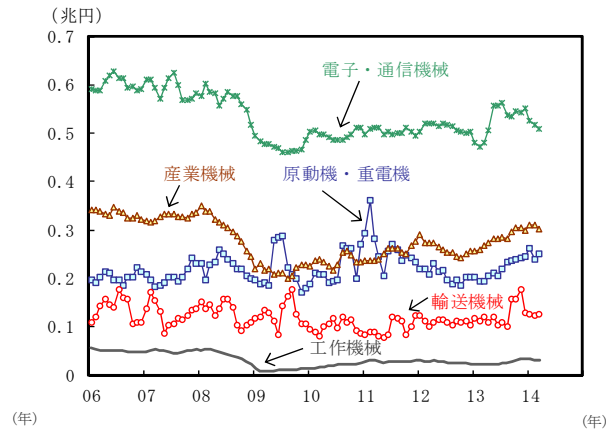
機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

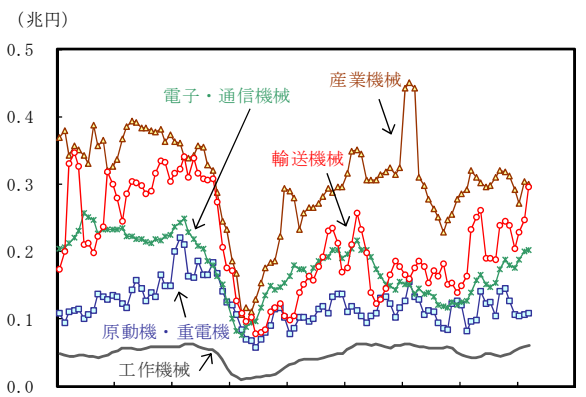


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

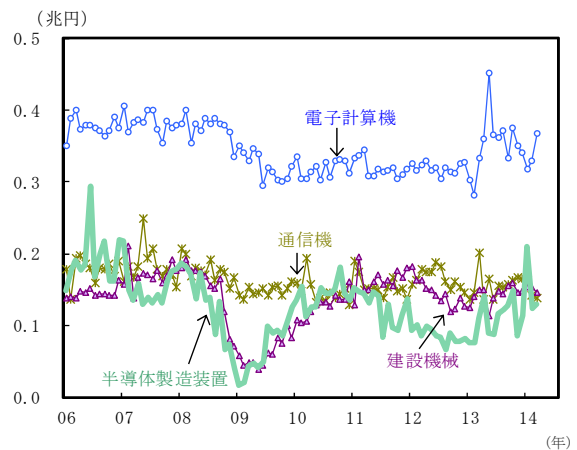


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

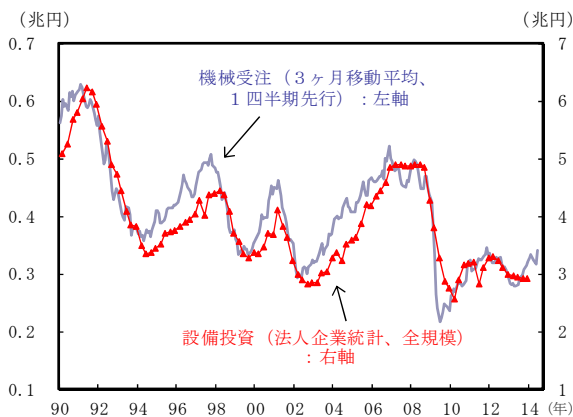


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

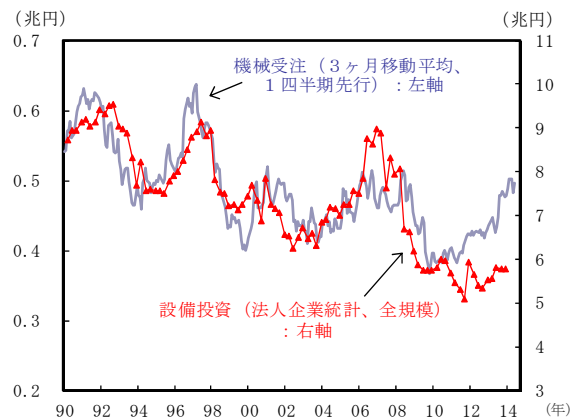
機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）



機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）



(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成